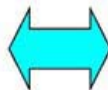


日本・東京の人口の減少

1. 少子化
2. 長寿化
3. 晩婚化, 非婚化
4. 核家族化

⇒高齢者単独世帯の増加
⇒人口の都市集中



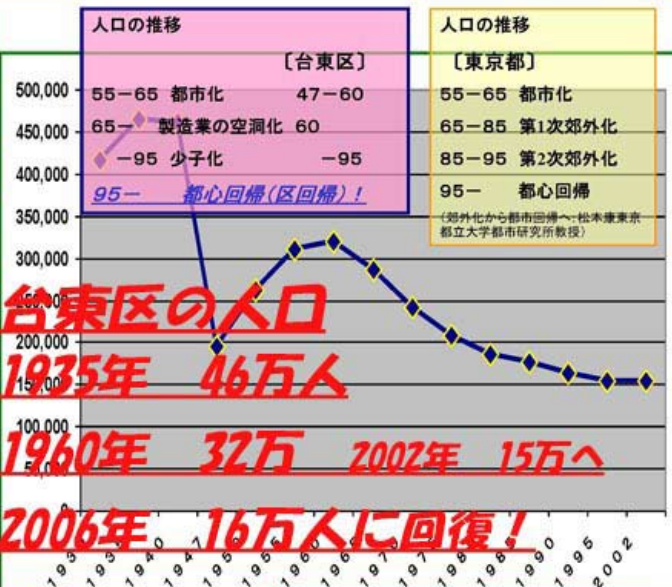
1. 多産
2. 短命(非長寿高齢)
3. 早婚, 皆婚
4. 三世帯同居
5. 農村社会

これらの変化は

一概に社会病理や社会問題としてみるのではなく、工業化に伴うもうひとつの文明システムが形成され、やがて成熟してきたことに随伴する現象である。

「人口から読む日本の歴史」鬼頭宏

年	西暦	人
昭和 5	1930	415,647
昭和10	1935	464,166
昭和15	1940	460,170
昭和22	1947	195,943
昭和25	1950	262,159
昭和30	1955	310,058
昭和35	1960	318,889
昭和40	1965	286,324
昭和45	1970	240,769
昭和50	1975	207,649
昭和55	1980	186,048
昭和60	1985	176,804
平成 2	1990	162,969
平成 7	1995	153,918
平成14	2002	154,573



14. 10.1 155,521人(79168世帯)

65歳以上35,221(22.7%)、~15歳14,589(9.4%)

昼間人口(昭和35-40;39.9万/32万ピーク、H7年317,700人

昼-常住 min 昭和30年;4.8万人

台東区の人口推移
(昭和5年~平成15年)